

令和7年度青森空港・三沢空港利用状況について

令和7年度の青森空港の国内・国際線定期路線の利用者数は1,324,207人、三沢空港の国内線定期路線の利用者数は382,326人となりましたのでお知らせします。

＜青森空港の利用概況＞

令和7年度の青森空港の国内・国際線定期路線の利用者数は1,324,207人となり、令和6年度と比較して64,973人増加した（5.2%増）。

チャーター便の利用者数を加えた青森空港の総利用者数は1,326,938人となり、令和6年度と比較して64,008人増加した（5.1%増）。

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	対前年比	対R元年度比
定期便	国内路線	1,129,330人	333,230人	497,535人	977,704人	1,154,311人	1,201,798人	1,235,812人	102.8%	109.4%
	国際路線	61,091人	0人	0人	0人	6,525人	57,436人	88,395人	153.9%	144.7%
	小計	1,190,421人	333,230人	497,535人	977,704人	1,160,836人	1,259,234人	1,324,207人	105.2%	111.2%
チャーター便	国内チャーター	3,106人	1,156人	895人	1,566人	1,369人	1,758人	2,369人	134.8%	76.3%
	国際チャーター	1,955人	0人	0人	1,904人	7,137人	1,938人	362人	18.7%	18.5%
	小計	5,061人	1,156人	895人	3,470人	8,506人	3,696人	2,731人	73.9%	54.0%
合計		1,195,482人	334,386人	498,430人	981,174人	1,169,342人	1,262,930人	1,326,938人	105.1%	111.0%

1 定期路線の概況

(1) 東京線

東京線は、通年で6往復運航を基本としつつ、令和7年度は1月6日から2月28日までの間は5往復での運航となった。利用者数は592,795人、利用率（提供座席数に占める利用者数の割合）は79.4%となり、令和6年度と比較して33,686人増加した。

(2) 札幌線

札幌線の利用者数は195,926人（JAL127,677人、ANA68,249人）、利用率は73.5%（JAL78.8%、ANA65.4%）となり、令和6年度と比較して13,728人増加した。

(3) 大阪線

大阪線は、令和7年3月30日よりJALが1往復減便となり、JAL3往復、ANA3往復運航となった。利用者数は293,720人（JAL173,530人、ANA120,190人）、利用率は80.9%（JAL84.1%、ANA76.7%）となり、令和6年度と比較して2,276人減少した。

(4) 名古屋線

名古屋線は、夏ダイヤが3往復（繁忙期4往復）冬ダイヤが2～3往復だったが、令和7年度は、これまで3往復での運航だった3月1日から28日までの間が2往復となった。利用者数は125,190人、利用率は76.3%となり、令和6年度と比較して436人増加した。

(5) 神戸線

神戸線は、1往復運航だったが、令和7年10月26日より繁忙期のみの期間運航（令和7年度は12月27日～1月5日のみ運航）となった。利用者数は28,181人、利用率は75.2%となり、令和6年度と比較して11,560人減少した。

(6) ソウル線

ソウル線の利用者数は40,878人、利用率は83.4%となり、令和6年度と比較して3,672人増加した。

(7) 台北線

台北線の利用者数は47,517人、利用率は85.4%となり、令和6年度と比較して27,287人増加した。(令和6年10月29日運航再開)

2 チャーター便の概況

国内チャーター便(FDAによる小松発等)の利用者数は2,369人、国際チャーター便(大韓航空による仁川発等)の利用者数は362人となった。

<三沢空港の利用概況>

令和7年度の三沢空港の定期路線の利用者数は382,326人となり、令和6年度と比較して48,352人増加した(14.5%増)。

チャーター便の利用者数を加えた三沢空港の総利用者数は382,572人となり、令和6年度と比較して48,074人増加した(14.4%増)。

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	対前年比	対R元年度比
定期便	東京線	235,795人	60,329人	115,520人	246,460人	267,762人	275,002人	282,424人	102.7%	119.8%
	札幌線	19,240人	5,303人	7,610人	13,390人	13,179人	13,321人	12,576人	94.4%	65.4%
	大阪線	42,337人	14,674人	27,829人	42,650人	43,733人	45,651人	87,326人	191.3%	206.3%
	小計	297,372人	80,306人	150,959人	302,500人	324,674人	333,974人	382,326人	114.5%	128.6%
チャーター便	国内チャーター	660人	452人	0人	76人	230人	524人	246人	46.9%	37.3%
合計		298,032人	80,758人	150,959人	302,576人	324,904人	334,498人	382,572人	114.4%	128.4%

1 定期路線の概況

(1) 東京線

東京線の利用者数は282,424人、利用率は76.5%となり、令和6年度と比較して7,422人増加した。

(2) 札幌線

札幌線の利用者数は12,576人、利用率は77.1%となり、令和6年度と比較して745人減少した。

(3) 大阪線

大阪線は、令和7年3月30日より、1日1往復から2往復運航に増便となった。利用者数は87,326人、利用率は70.4%となり、令和6年度と比較して41,675人増加した。

2 チャーター便の概況

国内チャーター便(FDAによる高知発等)の利用者数は246人となった。

報道機関用提供資料	
担当課	観光交流推進部 国際誘客交流課 航空推進監 佐々木 真紀
電話番号	(直通) 017-734-9153 (内線) 4922
報道監	観光交流推進部 次長 中村 義人

【県コメント】

令和7年度青森空港・三沢空港利用状況について

青森空港の年間利用者数は、国内線では東京線と札幌線が好調であったことと、国際線では台北線が通年運航となったことから、平成16年度以降最多となる約132万人となりました。

三沢空港の年間利用者数は、大阪線が1日2往復運航となったことと、東京線が堅調に推移したことから、平成15年度以降最多となる約38万人となりました。

県としては、今後も航空会社や関係機関と連携し、両空港の路線の充実・強化が図られるよう利用促進に取り組んでいきます。

(参考)

- | | |
|----------|------------------------|
| 平成14年12月 | 東北新幹線八戸駅開業 |
| | JASが三沢・羽田線を4往復から3往復に減便 |
| 平成15年4月 | ANAが青森・羽田線運休 |
| | スカイマークが青森・羽田線就航 |
| 11月 | スカイマークが青森・羽田線運休 |